

世界経済・金融市場動向（日本）

先月の振り返り

01 日本株式市場

6月の日経平均株価は下落しました。欧米の消費者物価指数が高進する中、海外各国中銀の政策金利引き上げが相次ぎ、投資家のリスクセンチメントが悪化しました。日本株は日本銀行の緩和的スタンスや円安進行などを背景に、欧米株に比べ相対的に底堅く推移しましたが、景気減速への警戒感から上値の重い展開となりました。

02 日本債券市場

6月の日本長期金利は低下（価格は上昇）しました。日本と同様にマイナスの政策金利を用いているスイス中銀が政策金利を引き上げたことで、日銀の金融政策修正に対する思惑が強まり、売り優勢の展開となりました。しかし、日銀は金融緩和を堅持するためチーペスト銘柄を対象にした指値オペの導入を決定し金利上昇を抑制しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

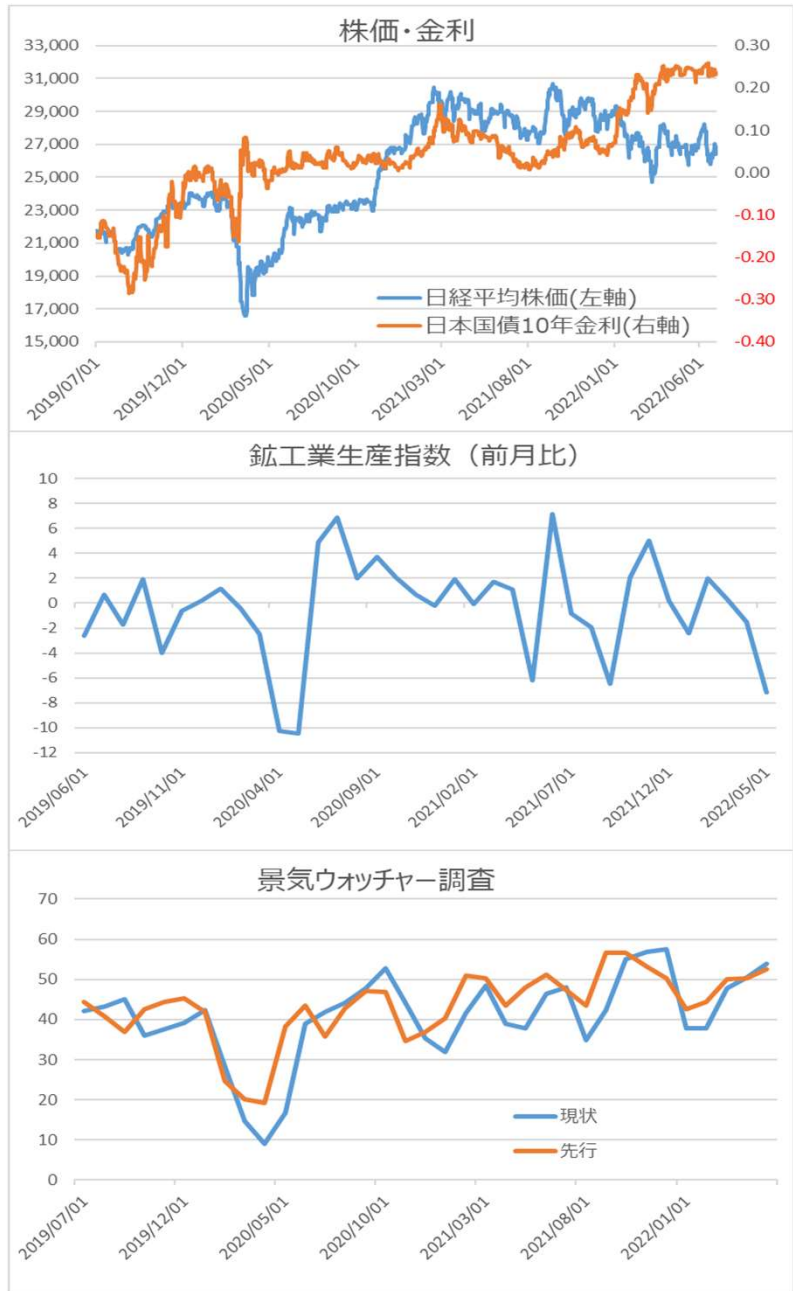
5月の鉱工業生産は、半導体等の部品不足や中国ロックダウンの影響などから前月比▲7.2%と2020年5月以来の低下幅となりました。経済産業省は基調判断を2カ月連続引き下げ、「弱含み」としました。

景気ウォッチャー調査では、新型コロナウイルス感染者数の減少や経済活動の制限緩和を背景に現状および先行ともに改善の傾向が見られます。

今後の見通し

01 日本株式市場

欧米のインフレ高進に伴う各国中央銀行の金融政策正常化の影響による世界経済減速懸念が台頭する中で、日本においても経済見通しの悪化が意識され上値が重い展開になることが見込まれます。一方で、日本銀行は欧米諸国と異なり金融緩和スタンスを継続していることから相対的に株価を下支すと考えます。



(注) データ期間：2019/7/1～2022/6/30
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

02 日本債券市場

日本銀行が4月の金融政策決定会合後も毎営業日指値オペを実施していることから、長期金利については0.25%を上限にレンジで推移することが見込まれます。

足許は、国内消費者物価指数が2%程度で推移していることから海外投資家が日本銀行の政策変更を巡って国債を売る圧力が一時的に強まることも想定されます。一方で、景気後退懸念から欧米諸国の期待インフレや国債金利が低下した場合には、日本国債金利も同様に低下すると考えます。

世界経済・金融市場動向（米国）

先月の振り返り

01 米国株式市場

6月のS&P500指数は、下落しました。消費者物価指数の上昇がみられたことから金融当局による金融引き締めが加速し、株価下押し圧力が強まりました。下旬にかけては、消費者センチメントの悪化やGDP確定値において個人消費が下方修正されたことなどから、先行き景気に対する警戒感が高まり、上値の重たい展開が継続しました。

02 米国債券市場

6月の米国長期金利は上昇（価格は下落）しました。中旬には、5月消費者物価指数が前年比+8.6%と1981年12月以来となる大幅な上昇となったことから、FRBが金融引き締め加速に動くとの見方が強まり、米国長期金利は一時3.5%程度まで急上昇しました。月末にかけては、経済統計の悪化がみられたことから景気後退懸念が強まり、金利上昇幅が縮小しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

消費者センチメントは、物価上昇の影響により購買意欲が減退しております。特に将来の見通しを反映する期待指数が大きく下落しています。

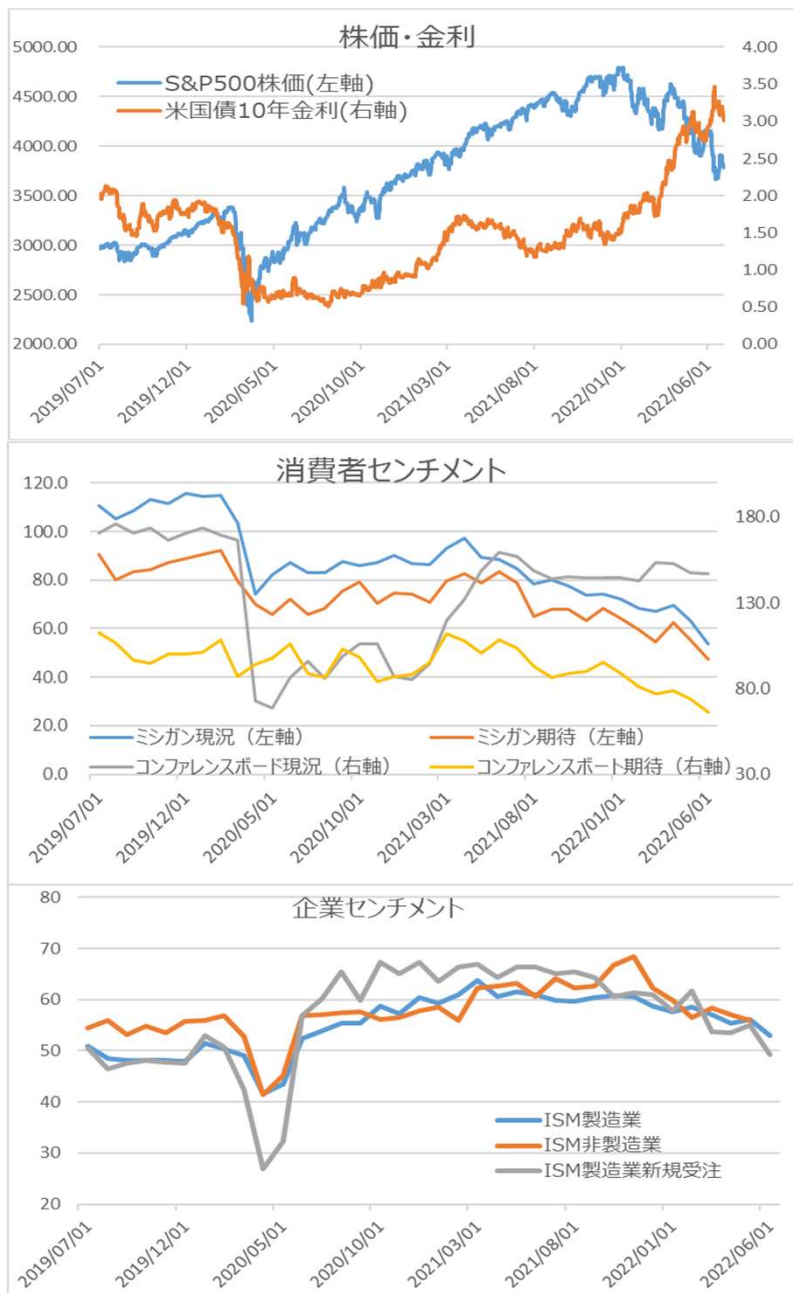
また、企業センチメントも製造業・非製造業ともに悪化傾向にあります。新規受注動向が減少傾向にあり、先行きの不透明感が強まりつつあります。

今後の見通し

01 米国株式市場

高水準のインフレが継続する中でFRBが金融引き締め政策を行うことで個人消費や企業センチメントが悪化しリセッションへの警戒感が高まっております。また、こうした状況が長引くと企業収益の圧迫に繋がることから上値の重い展開になることが見込まれます。一方で、物価動向の落ち着きや経済のハードランディングの兆候が確認されFRBによる積極的金融引き締め姿勢が軟化した場合は、株価が反発する可能性もあると考えます。

■当資料は、情報提供を目的として、FDアドバイザリーが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



(注) データ期間：2019/7/1～2022/6/30
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

02 米国債券市場

インフレが高止まりする警戒感は依然として高い中においても、欧米の景気後退懸念が強まり社債などクレジット（信用）リスクが悪化する局面では、米国債券が質への逃避需要により買われ金利低下圧力がかかると考えます。

しかしながら、消費者物価指数や期待インフレ率が予想外に上昇する場合は、FRBの金融引き締めの加速が再び懸念されることから金利が急上昇する展開も考えられます。